



日仏作家展覧会

わたしとしぜんと Et la Nature et moi

2017.9.23 - 10.30

企画・キュレーション / Curation

内田 千恵 / Chie Uchida (Art 7ten)

アーティスト / Artist

新野 洋 / Hiroshi Shinno

マーク = アントワン・ガルニエ / Marc-Anotine Garnier

展覧会概要

日本を代表する古都、京都に佇む歴史ある日本邸宅「瑞雲庵」。そのような日本の伝統的な空間で「自然」と「人間の関わり」をテーマとした日仏若手作家、新野洋とマーク = アントワン・ガルニエによる展覧会を開催いたします。

用いるメディウムやアプローチは全く違いますが、彼らは共に自然や原始的な思想に重きを置き制作しています。そのため彼らの作品からは物事への純粋な視線や自然への敬意を込めた温かい眼差しを感じる一方、自然と人との関係性や自然の中における人々の関わり合いについての疑問を肅々と投げかけているようにも見られます。

多くの社会問題が在し、自然豊かで美しい風景が人為により急速に消えつつある現在。そんな“今”の混沌を優しく包み込むような邸宅で、作品を通して自然を前にし、立ち止まって原点に立ちかえる。この機会でのみ現れた彼らの作品空間に、身を委ねてみてはいかがでしょうか。

About the Exhibition

Presenting works by Japanese and French artists, Hiroshi Shinno and Marc-Antoine Garnier, with themes « nature » and « human involvement ». The exhibition will take place in Zuiun-an, a beautiful traditional Japanese former residence.

The two artists are schools of different mediums and approaches. However, both attach the importance of nature and primitive thoughts to create their work. Being strong critics of the relationship between human and nature, the works they create are what some have found as gentle, respectful, and true to nature.

Due to human actions and many social problems we have today, the abundance of nature and its beautiful sceneries are diminishing. Zuiun-an is gently wrapped in nature and surrounded by the chaos of contemporary life. In this exhibition, viewers will find themselves in a setting mimicking this phenomenon while looking through the artist's work, in hopes to provide an opportunity to give thought of nature and get back to the grassroots.

新野 洋 (Hiroshi Shinno)

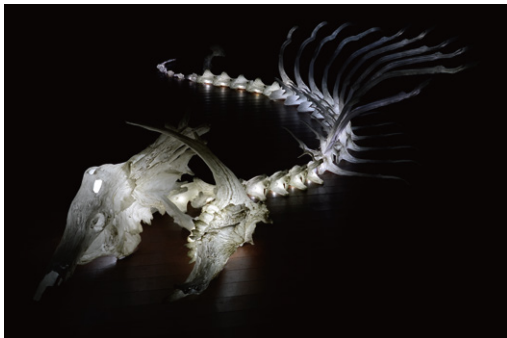
植物などを採取し、それらを素材として虫のような「いきもの」を作り出す造形作家。
幼少期より自然豊かな場所で生息する虫たちに触れ、それらを愛し、それらを想う心情が作品に反映されている。

京都府在住。

- 1979 京都府生まれ
- 2003 京都造形芸術大学 洋画科 卒業
- 2008 ウィーン美術アカデミー (Akademie der bildenden Kuenste Wien) 卒業

主な個展

- 2008 「Insects」/ SONGSONG、ウィーン、オーストリア
- 2011 「いきとし"いきもの"」/ YOD Gallery、大阪
- 2014 「幻想採集室」/ YOD Gallery、大阪
- 2016 APMoA Project, ARCH vol. 19 新野 洋「日月の江」/ 愛知県美術館、名古屋



日月の江 / 2015/FRP ,Silica Stone, LED / 560×265×86cm



6.4.2008,Wien / 2008 / synthetic resin, acrylic, brass / 3×3×5 cm

マーク = アントワン・ガルニエ (Marc-Antoine Garnier)

「写真」という技術がこの世に生まれて来てから、「写真」が我々に与えるその影響、そこから生まれる議論への探求をテーマに、写真技術を使用しながらメディウムにこだわらない作品を制作。

ルーアン (フランス) 在住。

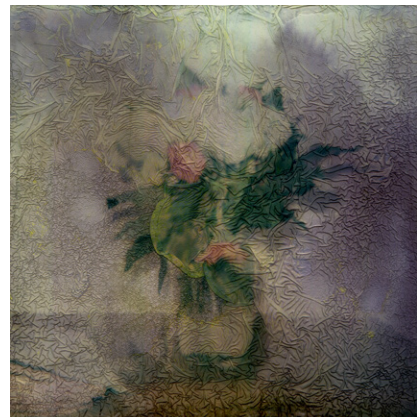
- 1989 フージェール (フランス) 生まれ
- 2012 ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校 DNAP (学士号) 修得
- 2014 ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校修士課程修了

主な展覧会

- 2013 龍野アートプロジェクト
- 2016 「1.certain regards」/ TEZUKAYAMA GALLERY
「Perception(s)」, サン・ジュリアン教会 / ル・プティ=ケヴィイー、フランス



Perception(s) / 2016 / Installation / Size variable



Nature morte / 2017
digital print of polaroid film emulsion with ink, oil and water

内田 千恵 (Chie Uchida)

テヅカヤマギャラリーアシスタントディレクター
日仏現代美術団体 Art 7ten 共同運営者

1984 大阪府生まれ

2002 大阪芸術大学芸術学部音楽学科卒業

2011 ロンドンメトロポリタン大学大学院
Art and Heritage Management 修了
テヅカヤマギャラリー入社

2015 渡仏

フランスにて Art 7ten 設立

Art 7ten (アールセッテン)

Art 7ten は、内田千恵と Kevin Brever Le Goff (ケヴィン・ブルヴァー・ル・ゴフ) によって 2015 年 12 月に日本とフランス間の現代美術の交流発展を目的として設立されました。

日本またはフランスで精力的に活動する才能ある若手作家が 2 国間で流動的な活動、制作ができるよう我々の専門分野とネットワークを活用し、作家たちが言語の壁を感じる事なく、密接に現代造形美術の分野で交流、制作するために活動しています。

現在は、奈良県の古民家に拠点を構え、フランス人作家のためのアーティスト・イン・レジデンスをオープン。美術展覧会の企画、日仏間を移動するアーティストのためのマネージメント、サポート業務、日仏通訳、翻訳を業務を行なっています。

会場 / Venue

瑞雲庵 / Zuiun-an

〒603-8074 京都市北区上賀茂南大路町 6 2 - 1

62-1 Kamigamo Minamioji-cho, Kita-ku, Kyoto-shi, Kyoto 603-8074

会期 / Period

9 月 23 日 (土祝) - 10 月 30 日 (月) 土日祝月のみ開館 12:00 - 18:00

Sep.23 - Oct.30 open only Sat, Sun, Monday and holidays 12:00 - 18:00

10 月 6 日 (金) のみニューイブランシュのため 15:00 - 22:00

Oct. 6 open for Nuit Blanche 15:00-22:00

入場無料 / Admission free

イベント / EVENT

9 月 23 日 (土祝) 17:00 - オープニングパーティ

10 月 1 日 (日) 14:00 - 「写真で植物を作ろう！」マーク = アントワン・ガルニエによるワークショップ

10 月 6 日 (金) 15:00-22:00 ニュイ・ブランシュ KYOTO 2017 参加

10 月 29 日 (日) 14:00 - 「新野洋と植物、昆虫採集！」親子向けイベント新野洋と植物、昆虫採集

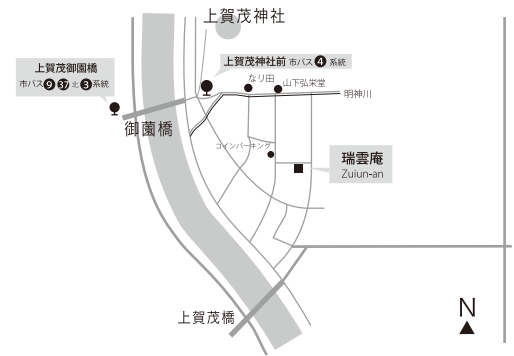
お問い合わせ / Contact

Art 7ten 内田千恵 Chie UCHIDA

06-6534-3993 (TEZUKAYAMA GALLERY 内 内田まで)

art7ten@gmail.com

<https://art7ten.tumblr.com/>



助成 / Grants from



協力 / In cooperation with

art 7ten TEZUKAYAMA GALLERY

Nuit Blanche KYOTO 2017

